

# 社会福祉法人 本郷の森 令和3年度 事業報告書

## 『本富士生活あんしん拠点』

### (本富士地区地域生活支援拠点事業)

#### ● 事業実績

##### ○相談

・登録者数:62名、新規登録者数:16名

障害種別では重複などもあるが、ほとんどが精神障害、あとは軽度知的障害の方など。相談者のうち定期的なつながりがある方は20名程度で、そのほかには関係機関への助言や介入の準備段階のケースが多い。

・相談・連携内容

普段連携している支援機関の他に、年度後半は特に障害者就労支援センターから紹介もあり、利用されている方は増えてきている。支援も来所や電話相談だけでなく、訪問や同行などアウトリーチが増えている。引きこもりで会うことも難しい方、虐待が疑われるケースで家族全体の支援を要する方などは、関わりの中で、中々変化や改善がみられず、介入の糸口をつかむのが難しいケースもあり、支援の難しさや支援する側の力量が求められ、負担に感じることもしばしばみられる。

他機関が連携しているケースも多く、多様な支援のかたちの中で、拠点の役割を見出していくことが必要になる。

##### ○地域づくり

・Re なでしこ元町

コアメンバーとして関わらせていただいている地域の居場所「Re なでしこ元町」はコロナ禍の中での活動のため、思うようにプログラムができなかったり周知し来てもらうことに課題を感じるが多かった。その中でも、R3.12月から社会福祉協議会や当法人監事と連携して、精神障害・ひきこもり当事者や家族向けのサロン活動を立ち上げることができた。

・地域包括支援センターの連携

また、地域包括支援センターや社会福祉協議会と顔が見える関係ができつつあり、障害が関わっていると思われるケースの対応について意見が求められることが多くなってきており、コンサルテーションの立場をとりながら、地域の相談体制を強化していく役割も求められていると感じている。来年度は8050問題や当事者の高齢化などの課題解決のための連携強化を目指し、まずは本富士地区の高齢分野支援者に、障害支援や制度について啓発する研修などの機会を作ることになっている。

・その他

今年後富坂地区・駒込地区に地域生活支援拠点が開設された。各地区の実情や支援者の想いに沿って様々な試みをしており、刺激になっている。本富士地区としても他拠点の動きも見ながら、ニーズに合わせた活動を試みたい。

## 参考

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
相談 (電話件数)	128 (109)	116 (99)	147 (122)	159 (140)	114 (101)	116 (107)	118 (103)	131 (116)	110 (91)	91 (73)	89 (66)	140 (109)
自宅訪問	6	7	8	8	7	18	15	15	14	9	10	11
関係機関 連携	147	122	182	150	103	150	147	169	125	107	96	97
同行	10	10	3	6	3	11	12	13	8	12	6	7

## ●これから

駒込地区(エナジーハウス)、富坂地区(あかり)の拠点事業が開始し、来年度には大塚地区の拠点事業が整備される。各地区での拠点の取り組みを実務者同士で振り返りながら、人員に限りがある中での拠点事業の活動の展開を検討していきたい。

また、多問題なケースについては、生活福祉課ひきこもり支援センター・高齢者あんしん相談センター・社会福祉協議会などとの連携が必要となるため、様々な会議体の中で顔を見える関係作り・コンサルテーションを通して、連携体制を強化していきたい。

地域づくりについて、依然コロナウイルス感染症の影響が続いているが、少しずつ以前の様子に戻ってきている。地域の居場所の展開について他機関や住民の方と検討したり、町会などとの関わりをさらにできるように地域の催しに参加するなどしていきたい。また、他機関・他拠点と研修などで地域の相談体制を強化できるような取り組みを模索していきたい。